

社会技術開発事業 研究開発プログラム 「科学技術と社会の相互作用」
平成20年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者： 瀬川 至朗（早稲田大学 政治経済学術院 教授）
2. プロジェクト企画調査名：「研究者のマス・メディア・リテラシー調査」
3. プロジェクト企画調査の概要： 社会との相互作用を通じた科学技術の変容の実態と課題を把握し、対処方策を提言すること、わけても現代日本における「研究者の社会リテラシーに関する課題の把握と対応方策の提言」を目的におき、4部門 1) 研究側関与者に対する調査 2) マス・メディア側関与者に関する調査 3) インターネットを利用して情報発信を行っている研究者に対する調査 4) 海外調査及びワークショップを開催した。
4. プロジェクト企画調査の実施期間：平成20年10月1日～平成21年3月31日
5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

総合的に見れば、企画調査の目標は概ね達せられている。海外調査の成果には、量・質ともに見るべきところが大きい。ただ、日本でのメディアと研究者の関係性を考察していく際に、これらの海外調査をどのように利用していくかについてより慎重な検討が必要ではなかったか。さらに、研究者の「発信能力」については「対メディア」以外の可能性を検討するべきではなかったか。また、「メディア」を論じる際の範囲の妥当性（例えば書籍の役割、インターネットの役割を視野に入れるか否か）に関して、若干の疑念があったことを付け加える。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案にむけた準備状況

5-1.の結果から見て、研究開発への期待は大きいですが、いくつかの問題点も指摘されている。一つは、研究開発プロジェクトとしては、どこに重点を置くのか、という点が必ずしも明確に示されていないという懸念があった。さらには、仮に重点がMTP（メディアトレーニングプログラム）であるとしても今回の調査企画では、それを実現するための具体的なロードマップに類するものが、必ずしも明確でない（例えば、MTPを実現するに当たって、科学者の意識の変革も必要になるのでは）。